



県内主要産業の動向

2019年2・3月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	19年1月	19年2月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は全体では低調だが、一部で新設ホテル等からのスプーン・フォークなどの注文もみられた。また、2月に開催されたドイツの見本市出展後、一部では海外からの引き合いもあった模様。産地では、官民共同で東京五輪や世界的なイベント等での採用を目指したオリジナル製品の開発に着手。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は引き続き低調。業務用はこれまで堅調に推移していた食品工場向け製品に一部で失速感がみられる。例年ではこの時期に繁忙期を迎える家庭用調理器具も動きは弱い。海外で販路開拓を模索する動きもみられるが、代金決済など解決すべき課題も多く、早急には進まず。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、春先の需要期に向けて生産、販売共に上がり基調。建築関連工具は堅調な動きを維持。しかし、中国メーカーとの競合から先行きに不安感が出ている。輸出は、東南アジア各国の旧正月が終わり復調。そうした中、人的な部分で生産効率に課題を抱える業者も散見される。
電子部品 ・デバイス	◐	◐	→	受注は弱含み基調。半導体製造装置向けは、中国を中心とした海外需要が落ち込んでいる。携帯端末向けは、スマホの販売不振により下押し圧力が続く。一方、自動車搭載用は、用途により明暗が分かれる。海外経済の減速懸念を背景に、先行きの見通しを慎重にみる向きが多い。
鋳物	○	○	↘	受注は増勢基調が一服。国内向けは、産業用機械が堅調に推移しているが、これまで好調だった建設関連に停滞感がみられる。海外向けは、中国向けの自動車・半導体の関連で勢いを欠く状況が続く。一部では国内需要の底堅さから、先行きの持ち直しに期待する声が聞かれた。
金型	○	○	↘	受注は横ばい水準。首都圏のビル向け建築金物は堅調なものの、自動車関連は米中摩擦やEVシフトなどの影響から減速している。相応の見積依頼数に比し成約率は伸び悩み。一部では、大手メーカーの内製化が始まり、今後の受注動向を不安視する声が聞かれた。
一般機械	○	○	→	外需は、米国向け航空機・宇宙関連の好調は変わらず。中国については、先々の動向の目安とされる春節明けの状況にも特段の変調なく、不透明感が残るものの底堅さが続く。内需は、航空機・金属素材が好調を維持するが、一部に投資判断の先送りもみられる。



業種	景況			コメント
	19年1月	19年2月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地の2月の生産高は若干前年を下回った。振り袖などは苦戦したが、夏向けの先染めは前年水準を上回った。4月以降に開催される展示会や各種イベントにも期待。一方、五泉産地の白生地生産高は前年を上回った。しかし、現状は依然厳しく、後継者や職人の不足等から先行きはかなり不透明な状況。
合織織物	●	●	→	春物生産の終盤期だが、暖冬の影響が続き追加受注もなく端境期入りしている。一部では秋物の展示会が始まったが、店頭の不調からバイヤーの反応は慎重。産地では、原材料価格の高騰だけでなく、染料メーカーの廃業等による染料の品不足で生産に苦慮する声が聞かれた。
ニット	●	●	→	春物生産は追加受注もなく例年より早く終了。足下では秋物受注期入り。2月の店頭は婦人向け春物衣料が堅調ながらも、秋冬物の受注はアパレル側の過剰在庫から弱含みの動き。一部では、消費税増税前の需要増もみられるが、主要な原材料価格の高騰が続いており、採算面では厳しいとの声も聞かれた。
木工家具	●	●	→	業務用では、飲食店関連を中心とした受注に相応の動きが続く。春先の商戦向け受注にも早い動き出しがみられた。家庭用では、大型製品の不振から小物類やアイデア製品に注力する動きが中心であるが、売上規模は限定的。組合や商工団体は製品PRのため恒例イベントの見直しを検討中。
清酒	●	●	→	2月の出荷量は、県内・県外向けとも前年を下回った。販路別では、飲食店向けが引き続き不振でスーパー向けも伸び悩んでいる。酒類別では、純米酒・本醸造酒・普通酒が不振。出荷が伸び悩む中、各酒蔵とも春向けの商品開発により需要喚起に努めている。
米菓	◐	◐	→	2月の売上はほぼ前年並み。需要期を過ぎ全般的に盛り上がりを欠く中、消費者の健康志向に訴求した新商品などが下支えした。足下では、需要喚起を図るため、各社とも春の行楽シーズン向け新商品を相次いで投入。また、改元に伴う記念商品の発売も予定している。
建設	◐	◐	→	公共工事は、予算発注の一巡により弱めの動き。発注者別では、県の土木部で件数の減少がみられる。民間工事は、製造業を中心に底堅く推移。足下で運輸、医療・福祉にも動きがみられる。住宅建設は、消費税率引き上げを控えて、持家の着工が動き出している。
大型小売店	◐	◐	→	2月の売上はほぼ前年並み。少雪の効果により客足が伸びたものの、青果価格の下落が下押し。化粧品等の婦人雑貨と高級ブランドは好調、紳士服も動きが出てきている一方で、日用品や日配品は儉約が続く、品目毎に二極化の傾向。改元にあわせ皇室関連の企画を検討する動きも。